

京都大学 文系および医学部人間健康科学科 傾向と対策

(Victory belongs to the most persevering.)

1. 過去の最低点

	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年	2026 年
総合人間	532.41/800(66.6%)	532.00/800(66.5%)	534.83/800(66.9%)	472.58/800(59.1%)	510.82/825(61.9%)	564.20/825(68.4%)
文	492.33/750(65.6%)	501.62/750(66.9%)	512.28/750(68.3%)	461.66/750(61.6%)	497.79/750(66.4%)	518.97/750(69.2%)
教育文系	580.24/900(64.5%)	586.32/900(65.1%)	593.83/900(66.0%)	526.91/900(58.5%)	571.08/915(62.4%)	598.22/915(65.4%)
法	519.75/820(63.4%)	544.10/820(66.4%)	545.40/820(66.5%)	484.75/820(59.1%)	568.38/885(64.2%)	601.63/885(68.0%)
経済文系	538.50/800(67.3%)	526.62/800(65.8%)	545.37/800(68.2%)	486.87/800(60.9%)	552.75/850(65.0%)	594.27/850(69.9%)
医(人間健康)	502.83/1000(50.3%)	518.28/1000(51.8%)	562.23/1000(56.2%)	481.12/1000(48.1%)	568.33/1025(55.4%)	561.91/1025(54.8%)

2. 配点

総合人間・文系	共テ 175 点	国語 150 点	地歴 1 科目 100 点	数学 200 点	英語 200 点
文学部	共テ 250 点	国語 150 点	地歴 1 科目 100 点	数学 100 点	英語 150 点
教育・文系	共テ 265 点	国語 200 点	地歴 1 科目 100 点	数学 150 点	英語 200 点
法学部	共テ 285 点	国語 150 点	地歴 1 科目 100 点	数学 150 点	英語 200 点
経済・文系	共テ 300 点	国語 150 点	地歴 1 科目 100 点	数学 150 点	英語 150 点
医学部人間健康科学	共テ 275 点	国語 150 点	数学 200 点	理科 2 科目 200 点	英語 200 点

3. 特筆すべき出題範囲について

- ★数学 A の出題範囲は全範囲となっています。
- ★数学 B の出題範囲は「数列」となっています。「確率分布と統計的な推測」は出題されないようです。

4. 学習について

京都大学の数学の大きな特徴としては、「基本的に小問をつけない。部分点を稼ぐより 1 問の完答を期待する」というところでしょう。小問をつけないことで、受験生の論理思考力を試すことができます。課題に対して自分で解決する力（学者としての力といっても良いでしょう）を求めているようです。教科書にあるような易問であったとしても小問が分かれていなければ、差がつくようです。また、傾向がなくなるように工夫して問題を作っているということなので「これがよくできます」といった提示は難しいです。

「京大は採点が厳しい」と言われますが、実際には受験生の数学力に配慮して点数を与えているようです。結局論理が破綻していれば、点数が与えられないというだけであって、個人的には「厳しい」というより「ごく普通」という印象です。とにかく論理が破綻していれば答えが合ってもダメということで、それは当然のことでしょう。ちなみに小問については 0 点か満点にするのが普通のようなようです。

まずは、知識の定着を目指してください。最高峰の大学ですので、他を圧倒する知識を有していなければなりません。まずは知識に漏れがないかは確認して下さい。参考書の例題にあるようなものがまず頭に入っているかを確認しましょう。流れとしては以下のように学習をこなしていくとよいです。

- ①『青チャート』『Focus Gold』『LEGEND』『大学への数学 一対一対応』等を利用して早期に参考書にあるものを繰り返し確認し、理解しましょう。
- ②時間に余裕があれば『理系数学の良問プラチカ 数学 I A II BC』や『大学への数学スタンダード演習』でアウトプットの練習をしたいと思います。
- ③『文系数学の良問プラチカ 数学 I A II BC』『ハイレベル数学 I A II BC の完全攻略』『上級問題精講』といった思考力を養成する問題集で実践力を向上させたいです。どれか一冊を完璧にするのは必須といえるでしょう。
- ④『京大の文系数学 25 年』で A、B レベルの問題をこなすと良いでしょう。このレベルをとることが合格点をとるのに必要となります。数学で点数を稼ぎたい受験生は C レベルもある程度戦えなければなりません。



5. 過去の出題問題と難易度

過去に出題された分野と難易度を以下に示します。

A・・・完答必須です B・・・合格の明暗を分けそうです C・・・方針をとらえて部分点を得たいです
D・・・難しいです。少しでも部分点がとれたら。 E・・・できなくても仕ないです

2026年 目標6割

① 図形と方程式、積分法 AB

標準的な問題です。接線を表し、交点の x の情報を得て面積を6分の1公式で求めるものです。これは完答必須の問題でしょう。

② 整式 BC

球面が出てきますが、結局距離の最大最小に帰着できたかどうかです。初等幾何、ベクトル、座標どれで処理してもよいでしょう。京大らしい問題です。数学で得点を稼ぎたい人は完答したいです。

③ 整数 D

定番である3の剰余で分類というものですが役者の文字が多く難しく感じた受験生が大半でしょう。(1)だけでもとれたら上出来でしょう。

④ 対数、数列 B

ガウス記号に委縮した受験生は多そうですが、こちらは完答を目指したいです。(1)があるため規則性をつかむのはそこまで難しくありません。あとはその規則を論証できるかどうか、(2)で(等差)×(等比)タイプの和の処理ができるかどうかです。

⑤ 確率、数列 AB

京大生としては標準的な問題でしょう。完答必須の問題です。

総評

①⑤は完答必須といえます。あとは②か④を完答できれば上出来でしょう。

2025年 目標6割

① 問1 指数対数 B

数字はやや大きいですが対数をとって x, y, z を表現します。まず値を k などとおくとよいです。

問2 整数 B

まずは分子の次数下げです。分母の次数が高いので整数になる n がある程度限られることを見抜きたいです。

② 整式 B

思い切って具体化するしかないでしょう。計算がやや煩雑ですが、計算するのみで方針は簡単です。完答したい問題です。

③ 確率、数列 D

まず3で割り切れることと偶数であることと分けて考えようと思えたかでしょう。3で割り切れることについては漸化式が適切です。出来は悪いでしょう。

④ 微積分 B

(1)では結局接線を求めればよいのかと思って取り組めたかどうかです。(2)は大丈夫でしょう。

⑤ 空間ベクトル C

共面条件が分かっているかが問われる問題です。京大にありがちな問題ですが、出来は悪そうである。

総評

①②④に取り組んだ受験生がほとんどでしょう。この3問がとれたら十分だと思われます。

2024年 目標6割

① 空間図形 C

90° があるので座標空間を設定すると処理がしやすいです。そのあと図形を見る能力は試されます。出来は悪そうです。

② 確率 B

色の塗り分け問題としてはよくあるもので、完答したい問題です。

③ 2次関数 B

形は難しそうに見えますが、基本に忠実に絶対値を外し、図をかいて考えます。完答したい問題です。

④ 整数、対数 C

条件から不等式を立て、必要条件を得ます。ここまでに部分点を確保できたらよいでしょう。

⑤ 2次関数、積分法 B

条件処理ができるかどうか勝負です。一旦連立して式を同値変形し、解析しやすい方程式に変えます。

総評

②③⑤を完答したいです。①④はやや難しく白紙となった受験生は多そうです。強いて言えば①で座標設定ができれば、多少解きすすめられます。その辺で部分点を得られたら上々の出来でしょう。

2023 年 目標 7 割

1 問 1 確率 A

基本問題です。「積が○の倍数となる確率」は基本的に余事象です。完答必須でしょう。

問 2 数と式 E

煩雑な計算でやりきれぬ受験生はほとんどいないでしょう。ここで時間をとられてしまった受験生が多そうです。

2 空間ベクトル B

基本的なベクトル計算です。図形的な見解はあまり必要ありません。完答したい問題です。

3 三角関数 D

(2)は難しいでしょう。 $\cos \frac{\pi}{5}$ の導出はしてみせておきたいです。部分点がもらえるはずです。

4 数列 B

S_n と a_n を含む漸化式は $S_{n+1} - S_n = a_{n+1}$ を用いるという基本と、等差数列×等比数列の和です。どちらも定石通りのもので完答したいです。

5 微分法 B

$\int_{\text{定数}}^{\text{定数}} f(t)dt = C$ とおくという定石に従うものです。三つおくので面倒ですが計算ミスせず完答したい問題です。

総評

まず、1問 1 2 4 5 を完答したいです。1(2) ができそうで時間をかけてしまった受験生も多そうですが、これは計算も煩雑そうでコスパが悪いと思ったかったです。試験が開始されたらまず全体を見て見たことある問題、取り組みやすい問題を探しましょう。

2022 年 目標 6 割

1 常用対数 C

$\log_{10} 2$ しか与えられてないことから、 $2^{10} = 1024$ などを用いて評価するのは見えてほしいが文系には厳しいでしょうか。理系との共通問題です。

2 場合の数・数列 B

漸化式に帰着できるかどうかです。確率ではないのでその発想が出てこない受験生もいたかもしれません。

3 微分積分 B

完答したいです。まず接点において接線を表すのがスムーズで定石通りでしょう。

4 図形と方程式 C

比の扱いがポイントで、直接表現すると煩雑です。 x 座標の差で考えるとよいですが出来は悪そうです。

5 ベクトル B

基底を設定してベクトルの基本計算にもちこむもので難しくありません。完答したい問題でしょう。

総評

まず 3 5 は完答したいです。これに 2 が確保できたら合格点でしょう。差がつきそうなセットです。

2021 年 目標 7 割

1 問 1 n 進法 C

計算自体は難しくありませんが、慣れていない受験生は多そうです。出来は悪いでしょう。

問 2 ベクトル A

これは基本中の基本です。スピーディーに完答したいです。

2 積分法 A

ただの計算で落とせません。

3 確率 E

難しいでしょう。漸化式じゃないと出せないと思うのが難しいですし、漸化式でやろうと思っても、事象を同値に言い換えたりせねばならず難しいです。できなくてもよいでしょう。

4 空間図形 B

同一平面上といった条件はベクトルで処理するのは良いと思いたいです。すると方針は基本通りです。完答したい問題です。

5 整数 A

過去によく出ている 3 の剰余で分類する問題です。過去問をやっていれば解ける問題で完答したいです。

総評

1問 2 2 4 5 を完答したいです。難易度がはっきりしているセットでした。5 は過去問によくあるタイプです。こういうことがあるので京大に限っては過去問演習をよくやっておきたいです。

2020 年 目標 3 割

1 微分積分 B

計算量は少しありますが、完答したい問題です。

2 接線、恒等式 E

直交条件から 2 次方程式に帰着できるかがポイントですが出来は悪いでしょう。

[3] 整数 D

まずは偶奇によって分類しようという発想が出てくるかどうか。それが分かってもその後も緻密な作業が必要で難しいでしょう。

[4] 空間ベクトル D

難しいです。AB が平面 OCD に垂直であることだけでも言えたら部分点がもらえそうです。

[5] 場合の数 C

計算法に頼らず、具体的に並べていく態度がほしいです。緻密さが必要ですが、完答は夢ではありません。

総評

ここ数年では最も難しいセットで4割とるのも至難でしょう。**[1]** **[5]** あたりは経験次第で完答は可能でしょう。そのあたりで差がついたと思われます。**[3]** も少し部分点がほしいです。

2019年 目標5割

[1] 問1 整式の剰余 A

普通に割り算するだけです。

問2 常用対数 B

最高位の数字を決める問題の本質が分かっているれば難しくないでしょう。

[2] 2次関数 B

完答したいです。2つの文字定数がありますが、グラフはそこまで複雑ではありません。完答したいです。

[3] 論理 C

恒等式であるような数値代入法で必要条件をゲットして、そのあと十分性を確かめるものです。出来は悪いでしょうか。

[4] 確率 E

Σ でやるか漸化式でやるか、いずれにしても煩雑で完答は難しいでしょう。

[5] 微分法、空間図形 B

設定力と図形をみる力が問われます。京大らしい問題です。完答したいでしょう。

総評

[3] **[4]** は文系には厳しく、他の問題で差がついたのではないかと思います。